

令和7年度事業報告書

令和7年4月1日から
令和8年3月31日まで

公益財団法人アルカンシエール美術財団

令和 7 年度事業報告

I. 公益目的事業の実施状況

令和 7 年度 原美術館 ARC 事業概況

展覧会事業として、令和 6 年度末から継続の春夏期において、会期序盤に特別企画としてカナダ在住のジャネット カーディフによるサウンドインスタレーション《40 声のモテット》を展観した。〈聴く彫刻〉を磯崎建築のピラミッド型の大空間のなかで体感しようと美術関係者の視察も相次ぎ、圧倒的な音と移ろう自然光で構成された唯一無二の臨場感は多くの鑑賞者の胸を打った。またそれに合わせて企画されたコレクションによるテーマ展示「この、原美術館 ARC という時間芸術」展は〈多彩で質の高いコレクションを、テーマを設け年間 10 か月の開館期間を 2 期に分けて展観する〉という 2 館統合後の大枠に沿って企画されたが、なかでもソフィ カルによる《限局性激痛》の（第二部）展示に魅了され、繰り返し来館する熱心なファンの姿も見受けられた。

秋冬期においては、「トロイメライ」と題し、〈夢／夢を見ること〉をキーワードに据えたコレクションによるテーマ展示を行った。〈私は夢見る〉〈夢と現実のあい〉〈夜を越え出て〉〈景色の中へ〉と展示室ごとに章立てし、アーティストが取り組んだ多彩なく夢の表現を紹介した本展は、約半年間に及ぶ長期展示となったため、観海庵では二度の展示替えを実施。会期中には多彩な普及事業を開催した。なかでも「《時の蘇生 柿の木プロジェクト》原美術館 ARC 植樹 20 周年記念イベント」は、同プロジェクトの主宰者である宮島達男氏による講演会やインタビュー動画の撮影・公開に加え、地元作家・温井大介氏による参加型のロングランワークショップなど、充実の内容となった。また、「トロイメライ」という展覧会タイトルにちなみ、群馬交響楽団アンサンブルとピアニストの澤田まゆみ氏を招聘し、群馬県からの委嘱事業の形で（後援：群馬県教育委員会・渋川市教育委員会）開催した「夢を奏でる三日間」では、前庭に面したステージと展示室、開架式収蔵庫を会場として、木管五重奏・弦楽四重奏・ピアノソロと、計 10 公演に及ぶコンサートが多くの観衆を魅了した。（この三日間、高校生以下は入館無料とした）

令和 8 年 3 月からは、「虹のつくり方」と題し、原美術館創成期の活動に焦点を当てたコレクション展を開催している。昭和 52 年（1977 年）創設のアルカンシエール美術財団（フランス語で虹を表す）の名称にちなみ、約半世紀に至る原美術館とハラ ミュージアム アーク、原美術館 ARC へと続く当館の軌跡を振り返る、3 か年連続企画の第一弾である。

本年度の入館者数は 23,380 名、開館日数は 260 日、平均入館者数は 89.9 名、入館料収入の総額は 29,500,591 円（税別）であった。

また、令和 8 年 2 月 12 日付で群馬県より、改正博物館法に基づく博物館再登録手続きが完了した旨、通知を受けた。

法人運営に関する事項として、令和 8 年 1 月に内閣府公益認定等委員会による定例の立入検査が実施された。一部法人運営手続等に改善指導を受け、順次対応中である。

A. 学芸事項

【1】展覧会の開催

2025 年度において次の通り展覧会を開催した。

(a)「この、原美術館 ARC という時間芸術」、「特別企画：ジャネット カーディフ：40 声のモテット」

*令和 6 年度より継続 *古美術展示替え：5 月 13 日

会期 特別企画および第 1 期：2025 年 3 月 15 日—5 月 11 日

第 2 期：2025 年 5 月 16 日—7 月 6 日

協賛 エルメスジャパン株式会社

会場 原美術館 ARC（現代美術ギャラリーA、B、C および特別展示室・観海庵）

開催日数 全会期：97 日（前期：52 日、後期：45 日）

入館者数 全会期：9,365 人（1 日平均 96.5 人。2024 年同期比：101%）

前期：6,180 人（1 日平均 119 人）、後期：3,185 人（1 日平均 70 人）

内容

移ろう自然の中で翼を広げる磯崎新建築の端正さに心動き、天窓からの自然光の下で個性あふれる作品と出会い、屋外に出ては草花の咲く庭に点在する宮脇愛子の《うつろひ》や多田美波の《明暗》に環境とともにある作品のあり方を観る、といったように、原美術館 ARC での鑑賞体験は個々の作品鑑賞にとどまらず、当館にあるひとつひとつの要素が、当館に身をおく時間や陽光の変化とともに緩やかに繋がっていくという特徴をもつ。そのような原美術館 ARC はそれ自体が詩のような、音楽のような芸術、つまり時間芸術なのではないかと表明する展覧会とした。

会期序盤は、特別企画として、カナダを拠点に活躍するジャネット カーディフのサウンドインスタレーション、《40 声のモテット》を自然光あふれる磯崎新設計のギャラリーAに展示し、音と自然の光が構築する彫刻的空間を体験する機会とした。

本作は、トマス タリス(16 世紀イングランド王国の作曲家、王室礼拝堂オルガン奏者)作の 40 声の楽曲を再構成したもので、2001 年の発表以来、世界各地で鑑賞されているカーディフの初期代表作。楕円形に立ち並ぶ 40 台のスピーカーの一台一台から一人一人の声が聞こえ、徐々に声が重なり合い、やがて 40 人が今ここで歌声を響かせ合っているかのような臨場感を来館者に体験してもらった。

なお本作は、当館での展示後、金沢 21 世紀美術館、長崎県美術館、丸亀市猪熊源一郎現代美術館へと巡回させ、2026 年 2 月 15 日に巡回展が完了した。

一方、ギャラリーB と C には当館の収蔵作品から、2024 年高松宮殿下記念世界文化賞を受賞し

たソフィ カルの《限局性激痛》を展示。カルの“人生最悪の日”までのカウントダウンと、自身の心の痛みを他人の苦痛と交換することで徐々に痛みが薄れてゆく過程を観る／読むことで、カルのみならず鑑賞する我々の感情にも変化が生じてゆく。

また、第2期のギャラリーAには、李禹煥が当館での個展（1991年）用に制作した大作の三連画《風と共に》や山本紉の《落下する水》シリーズなど、制作にも鑑賞にも時間の流れを伴う作品群を収蔵作品から選び、ここにしかない、原美術館 ARC という時間芸術を存分に堪能する機会とした。

出品作家

第1期：ジャネット カーディフ、ソフィ カル

第2期：ソフィ カル、剣持和夫、崔在銀、杉本博司、戸谷成雄、宮脇愛子、山本紉、李禹煥など

（b）コレクション展「トロイメライ」

会期 2025年7月12日—2026年1月12日

*古美術展示替え：2025年9月4日、11月6日

会場 原美術館 ARC（展示室：現代美術ギャラリーA、B、C および特別展示室・観海庵）

開催日数 163日

入館者数 14,230人（1日平均87.3人）

内容

本展では、誰もが身近に感じながらもその多彩さゆえに謎めく「夢」、「夢を見ること」をキーワードに当館のコレクションの中から現代美術と古美術作品をセレクトした。

「夢」とは眠るときにだけ見るものとは限らない。例えば嬉しいことがあれば世界が輝いて見え、悲しいことがあれば近くににいる人の声を遠くに感じることもあるように、気持ちと身体との相互作用は、今、確実に自身に起きていることではあるのに、夢をみているかのように曖昧で、とらえがたく、その実感を誰かと共有することは難しい。また、生活の中であたりまえのように、デジタルの画面の中と、怪我をすれば痛みを感じる生身の身体の両方を行ったり来たりしている私たちにとって、いまや現実と架空を完全に切り離すことはナンセンスのようにも思える。つまり、「現実（リアリティ）」とはどこかにあるものではなく、それぞれの実感＝「たしかさ」をたどる行為そのものではないか、私たちは常に幾重にも折り重なった夢を現実に見ている状態だといえるのではないかと、という問いかけから発し、アーティスト、作品、その作品を選ぶ学芸員、そして鑑賞者それぞれがこの場所（美術館）で立ち上げる「トロイメライ＝夢見ごと」の重なり合いを楽しんでいただくことを今回の展覧会のテーマとした。

各ギャラリーのテーマは次のとおりである。「私は夢を見る」、「夢と現実のあわい」、「夜を越え出て」、「景色の中へ」。「夜を越え出て」の展示室では、戦後80年の節目に合わせ、重たく暗い“戦争”の記憶や国家間の争いと向き合う作家の作品も取り上げている。

出品作家

現代美術：カレル アペル、安藤正子、イケムラレイコ、フランチェスカ ウッドマン、大竹伸朗、アンゼラム キーフアー、ヴィルヘルム サスナル、佐藤時啓、シンディ シャーマン、中里斉、名和晃平、奈良美智、ジョナサン ボロフスキー、増田佳江、森村泰昌、やなぎみわ、横尾忠則、米田知子、マーク ロスコなど

古美術：作者不詳《武蔵野図屏風》、狩野派《層嶺瀑布図》《帰去来・放白鷗図》、作者不詳《賢学法師絵詞（摸本）》、円山応挙《山水図屏風（秋冬）》、狩野派 寄合書より 5 点など

（c）コレクション展「虹のつくり方」＊2026 年度へ継続

会期 2026 年 3 月 14 日—9 月 6 日

会場 原美術館 ARC ギャラリーA、B、C

内容

「虹のつくり方」と題した本展では、1979～1990 年の原美術館の活動にスポットを当てた。仮に「原美術館創成期」と名付けるこの時期は、日本における現代美術館の先駆けとして現代美術の普及を目指し、世界的な作家の個展開催のほか、日本の若手作家に発表の場を提供する意欲的なグループ展「ハラ アニュアル」を開催した。また、旧邸宅ならではの空間を活かした常設インスタレーション作品（ジャン＝ピエール レイノー《ゼロの空間》1980 年、宮島達男《時の連鎖》1980 年）が登場。このゼロから立ち上げられた美術館の開館当初の勢いを、現代美術に魅せられた創設者の原俊夫によって収集され続けている唯一無二のコレクションで辿る。現在の原美術館 ARC へと至る虹のような軌跡を映し出す、全 3 回の展覧会（毎年春夏季に開催予定）の第 1 回。

出品作家

1. 会いに行く美術—「私は作家に会いに行くことから始めた」（ギャラリーC）

カレル アペル、ナム ジュン パイク、工藤哲巳、李禹煥、トム ウェッセルマンなど

2. そこに行けば会える美術—世界の今がここに（ギャラリーB）

クリスト、ピョートル コワルスキー、今井俊満、ジャン＝ピエール レイノーなど

3. ハラ アニュアルの作家たち—若い作家に発表の場を（ギャラリーA）

遠藤利克、笠原恵実子、菊谷直美、小清水漸、柴田耕作、須田基揮、菅野由美子など

(d)「安藤正子：普通の日々」 ＊2026 年度へ継続

会期 2026 年 3 月 14 日－9 月 6 日

会場 原美術館 ARC 特別展示室 観海庵

内容

特別展示室 観海庵において、小企画「安藤正子：普通の日々」展を開催。小さな楽焼約 150 点によるインスタレーション《ニューノーマル》(2024 年)を中心に、新作の油彩画を含む、近作の絵画や映像を和の設えの観海庵と呼応させ、小規模ながらも安藤の現在地を観ることのできる機会とした。原美術館(東京・品川)での鉛筆画と油彩画の個展「安藤正子ーおへその庭」(2012 年)から早 14 年。かつての絵画表現に心理的な乖離が生じた時期に、陶のレリーフと格闘することで絵画的イメージを物理的に立ち上げるようになり、楽焼の作品『ニューノーマル』へと繋がっていった。楽焼の手法に現在の心境が合致し、手と土と火とで、花、りんご、子供の足、猫など、まるで絵画の虚構から現実へと取り出してきたかのような小さな陶の数々を作る安藤。地球上のそこそこで絶え間なく続く戦禍や災禍に心を痛めながらも、そのような「新しい日常」に負けまいと、赤々と燃える火や燻る煙の中にある何かに目を凝らし、光るかけらを探し出し、ひとつひとつ、ひとりひとりを瓦礫の中から救い出していく。

出品作家 安藤正子

【2】作品修復・保存

現代美術

- (1) 遠藤利克《Plan for Sculpture of Circle》(1987 年) の修復を実施した。
(修復業者：修復研究所 21。絵の具の浮き上がりの補正、支持体の補強など)
- (2) 堂本尚郎《連続の溶解》(1965 年) の修復を実施した。
(修復業者：修復研究所 21。絵の具の浮き上がり、ひび割れの補正、支持体の補強など)
- (3) ピエール スーラージュ《静物》(1959 年) の修復を実施した。
(修復業者：修復研究所 21。絵の具の浮き上がりを補正)
- (4) シグマー ポルケ《無題(天窓の光の中の頭部)》(1983 年) の修復を実施した。
(修復業者：修復研究所 21。絵の具の細かい剥落部分を補正)
- (5) 宮脇愛子《無題》(1964 年) の修復を実施した。
(修復業者：修復研究所 21。画面のクリーニング)
- (6) 斎藤義重《作品 14》(1961 年) の修復を実施した。

(修復業者：修復研究所 21。絵の具の浮き上がり、ひび割れの補正)

(7) アニッシュ カプーア 《虚空》(1992 年) の修復を実施した。

(修復業者：修復研究所 21。全体のクリーニング、一部顔料を補彩)

(8) アンディ ウォーホル 《キャンベルズ トマト スープ》(1981 年) の修復を実施した。

(修復業者：株式会社 アート。屋外彫刻作品のため経年により塗料の浮き上がり、錆などが目立つ。全体の再塗装を行う。)

(9) オラファー エリアソン 《Sunspace for Shibukawa》(2009 年)

修復業者：ディーブレン、E.P.A 武松氏監修

鍵部分に不具合がみられたため現在修復に向けて調整中。

古美術

2021 年度（令和 3 年度）に原家より受贈した作品 111 点中、以下の仏教絵画 5 点の修復を前年度に引き続き実施し、9 月に完了した（令和 7 年 9 月 26 日納品）。

（修復業者：半田九清堂。学芸担当者が 2～3 か月毎に工房を訪問し、両者で進行状況の確認・検討会を繰り返し行ってきた。）

1. 七佛曼荼羅
2. 十一面観音図
3. 法華曼荼羅図
4. 宝冠釈迦図
5. 阿弥陀三尊来迎図

【3】 作品の新規購入

1. ジャネット カーディフ & ジョージ ビュレス ミラー
「Unprepared Piano」

ミクストメディア、電子機器、4 チャンネルビデオ

27 x 30 x 28 cm

2025 年



2. ジャネット カーディフ & ジョージ ビュレス ミラー
「Street at Night in Orange」

油彩、オーク材の額、電子機器、音声（ステレオ）

30.5 x 23.5 x 6 cm

2022/2025 年



【4】作品の受託

(1) 受託解除

作家名：泉 太郎

作品名：くすぐられる夢を見た気がする（雲が落ちる）

制作年：2017 年

素材・技法：ミクストメディア

サイズ：可変

寄託者：鳥越貴樹氏

受託日：2018 年 4 月 1 日

返却日（受託解除日）：2026 年 1 月 6 日

【5】基本財産（美術品）の整理について

当財団が所有する基本財産である美術品につき、財産目録と現物の確認を行い整理したところ、展示に適さない状態、管理不可能な美術品があったので、該当する以下の美術品を処分した。

古美術 1 組

現代美術 15 点（ビデオ 7 点、絵画 4 点、彫刻 2 点、版画 2 点）

B. 普及事項

【1】 イベント、講演会、教育プログラム等

本年度は下記の通り、17 件のイベントを開催した。

1. 「ジャネット カーディフ：40 声のモテット」「この、原美術館 ARC という時間芸術」 メンバー限定ギャラリーガイド

日時：2025 年 4 月 5 日（土）14:00

会場：原美術館 ARC

参加費：無料

「ジャネット カーディフ：40 声のモテット」「この、原美術館 ARC という時間芸術」展会期中に担当学芸員によるメンバー限定ギャラリーガイドを行った。ゆったりと対話をしながら全館をめぐること、作品や当館についてより一層の理解を深めていただくことのできる内容となった。

参加人数：2 名

2. メンバー限定イベント Art in Town: UESHIMA MUSEUM

日時：2025 年 5 月 24 日（土）11:00

会場：UESHIMA MUSEUM

参加費：1,500 円（入館料別）

注目の展覧会を見学する、原美術館 ARC メンバーシップ会員のための特別プログラムとして、事業家・投資家でありアートコレクターでもある植島幹九郎氏が 2024 年に東京・渋谷に開館した美術館「UESHIMA MUSEUM」を訪問した。当日は、副館長の不破氏、学芸担当の小林氏に展覧会場で解説いただいたのち各自で自由に展覧会を鑑賞した。

参加人数：21 名

3. アートを使った手話通訳実習（群馬大学との共催授業）

日時：2025 年 5 月 10 日（土） 8:30-11:00

会場：ギャラリーA、B、C、原美術館 ARC 回廊（振り返り授業）、

参加費：無料（入館料減免申請）

群馬大学共同教育学部で手話通訳を学ぶ学生による実践実習を本年度も開催。今回は 2 作品の常設作品と、特別展示「ジャネット カーディフ 40 声のモテット」を取り上げ、開館前の時間帯を貸し切り実施した。常設作品では学芸員が作品の説明を行い、それを学生がろう者に向けて手話で通訳し、質問や感想についても手話を通してその場で丁寧に共有する。「音の彫刻作品」とも言われる「40 声のモテット」については、耳の聞こえない鑑賞者にどのように「翻訳」をするのが難題であった。大学側は「コンサート手話通訳」の長谷川恵美理氏を招聘し、当館館長や担当学芸員と入念に事前の下見や打ち合わせを重ね、本番を迎えた。音楽の手

話通訳は、言語による作品解説の翻訳とは異なり、専門のテクニックが必要である。ただアートが与える感動や発見は、伝え方次第で言葉を越えて共有しうるものだと、学芸員にとっても様々な可能性や希望をもらう実習内容となった。

参加人数：9名（大学生5名、教員4名）

協力：群馬大学共同教育学部

4. 担当学芸員によるギャラリーガイド

日時：2025年5月11日（日）、6月28日（土）、8月2日（土）14:00-15:00

会場：原美術館 ARC ギャラリーA、B、C、特別展示室 観海庵

参加費：500円（入館料別）

「ジャネット カーディフ 40 声のモテット」と「この、原美術館 ARC という時間芸術」（春夏季）、「トロイメライ」（秋冬季）の会期中に、それぞれの担当学芸員によるギャラリーガイドを開催。展覧会に込められたメッセージや展示作品の詳しい解説、当館コレクションに加えられた経緯など、参加者からの質疑応答を織り交ぜながら展示会場を巡った。

参加人数：7名（5月11日）、2名（6月28日）、6名（8月2日）

5. ワークショップ ろうけつ染めでうちわをつくろう

講師：大竹夏紀

日時：2025年7月19日 10:00-/14:00-（所要時間各約120分）

会場：原美術館 ARC 回廊スペース

参加費：2,500円（入館料別）

うちわを作るワークショップの特別回として、県内在住の染色アーティスト 大竹夏紀氏を講師にろうけつ染めでうちわをつくる回を開催した。本年度は3回目の開催であるが、大竹氏のファンも多く、毎年キャンセル待ちがでるほどの人気企画となっている。また、専門的な道具が必要な「ろうけつ染め」を体験する数少ない機会でもあり、作家指導のもとオリジナルのうちわを作れることも好評を得ている。当日は作家のファンを中心に、小学生からシニア世代まで幅広く参加。回廊から見えるさわやかな景色や、展覧会も合わせて、原美術館 ARC で過ごす「アートなひととき」をお楽しみいただいた。

参加人数：13名

6. ワークショップ 折り染めでうちわをつくろう

日時：2025年7月20日（日）、21（月・祝）各日 10:00-/13:00-/15:00-（所要時間約40分）

会場：原美術館 ARC 回廊スペース

参加費：600円（入館料別）

毎年開催している、染料で染めた和紙を用いてうちわをつくるワークショップを開催。参加者

は当館スタッフの指導のもと、折りたたんだ和紙を顔料インクで思い思いに染め、それを広げてうちわの骨に貼りつけて仕上げるもので、主に親子での来館者や小学生をターゲットにしている。簡単なワークショップを通して作品を作る楽しみを育み、また出来上がりの違いや個性を比べてみることで美術に親しむ感性を養うことを目的としている。事前予約も必要ないことから、飛び入りでの参加者も多くみられた。

参加人数：60名（2日間）

7. 学校の先生を対象とした鑑賞企画（無料見学・相談会）

日時：2025年7月20日から27日まで 休館日である7月24日（木）を除く6日間

会場：原美術館 ARC

参加費：無料

対象の期間中、教育機関に携わる教職員の方々を対象に、当館を利用した授業や学外活動などを検討いただくことを目的とした無料観覧・自由見学の機会を設けた。まずは学校の先生に当館に来ていただき、どのようなワークショップや鑑賞教育ができるのかを具体的にイメージしてもらうことが狙い。昨年12月末頃（冬休み時期）に開催した際、アンケートで夏休み期間の開催を希望する人が多かったため、本年度は7月に実施。また、前回は当日受付可能としたものの、参加者（教職員）からのフィードバックが少なかったため、今年度は予約制・ガイド付きにした。残念ながら参加者はいなかったが、学校団体の誘致のためにもプログラム内容を変更するなど工夫し、継続の方向を探りたい。

参加人数：0名

8. ワークショップ 榎本浩子「やわらかな時間」

講師：榎本浩子（10月25日のみ来場）

日時：2025年9月6日（土）、9月20日（土）、10月18日（土）、10月25日（土）

各日 10:30- / 13:30-（所要時間 30~60分）

会場：原美術館 ARC カフェ ダール裏エリア

展覧会「トロイメライ」の関連企画として、群馬県在住のアーティスト榎本浩子氏と当館学芸員が協働し、“植物観察”を行うワークショップを開催した。参加者は当館の庭の一角、木陰と花壇がある場所で、専用のワークシートに自分だけの「植物日誌」を描き留める。これは展覧会のタイトルである「トロイメライ」が「夢見ごち」という意味のドイツ語であることから発案された。展覧会鑑賞の前後に、緊張を解き、心をほぐすような時間を過ごすことで作品の見え方が変化し、想像力が膨らみ、またより美術館を親密な空間として感じることもできるプログラムとなっている。

参加人数：17名（4日間 ※9月20日終日と10月25日13:00-は雨天のため中止）

9. 屋外作品ガイドツアー

日時：2025 年 9 月 27 日（土）11:00-（所要時間各約 60 分）

会場：原美術館 ARC

参加費：500 円（入館料別）

自然豊かな環境や、その中に佇む磯崎新氏設計の建築、そして見過ごされてしまいやすい屋外作品を巡るツアーを開催。参加者は当館学芸員による作品解説や建築の特徴、植栽や季節ごとの楽しみ方の説明に耳を傾けつつ、質疑応答を交えながら和やかな会となった。展覧会とは別の側面から当館の魅力を知ってもらう機会でもあるので、今後も継続して開催したい。

参加人数：4 名

10. 夢を奏でる三日間：群馬交響楽団アンサンブル×澤田まゆみ（ピアノ）×原美術館 ARC

日時：2025 年 10 月 11 日（土）、12 日（日）、13 日（月・祝）

会場：原美術館 ARC 屋外ステージ、ギャラリーA、開架式収蔵庫

参加費：ミニコンサート 無料

シークレットコンサート 一般 2,000 円（入館料別）＊中高生は入館無料（対象：中学生以上）、原美術館 ARC メンバーシップ会員 1,000 円（ご同伴 1 名まで同料金、シングル会員はご本人のみ）、群響定期演奏会定期会員（ご本人のみ） 1,000 円（入館料別）＊記念品（原美術館 ARC コレクション作品絵葉書 5 枚セット）付き

主催：群馬県、公益財団法人アルカンシエール美術財団 原美術館 ARC

後援：群馬県教育委員会、渋川市教育委員会

企画協力：公益財団法人群馬交響楽団

協力：日本ピアノホールディング株式会社 ピアノプラザ群馬

群馬県の委託授業として、展覧会「トロイメライ」の期間中に、創立 80 周年を迎える群馬交響楽団と、幅広い演奏活動で知られる高崎市在住のピアニスト澤田まゆみ氏によるスペシャルコンサートを、三日間連続で開催。シューマンの名曲「トロイメライ」をはじめとする“クラシック音楽”と“現代アート”が響きあう夢のような三日間となった。また開催期間中は小中高校生以下を入館料をすべて無料とし、8 回のミニコンサート（ギャラリーA 内と屋外ステージで開催、無料）と、2 回のシークレットコンサート（開架式収蔵庫内、有料）はそれぞれ盛況のうちに終わった。

参加者数（連続参加による重複有。目視によるカウント）

10 月 11 日（土）

ミニコンサート：ピアノステージ 67 名、群響アンサンブル／木管五重奏 92 名、
ピアノステージ 52 名

シークレットコンサート：41 名（一般 8 名、原美術館 ARC メンバーシップ会員および群響定期演奏会定期会員、関係者 20 名、取材・招待 13 名）

10 月 12 日（日）

ミニコンサート：ピアノステージ 127 名、群響アンサンブル／弦楽四重奏 169 名

ピアノステージ 86 名

シークレットコンサート：42 名（一般 8 名、原美術館 ARC メンバーシップ会員および群響定期演奏会定期会員、関係者 20 名、招待 14 名）

10 月 13 日（月・祝）

ミニコンサート：ピアノステージ 62 名、ピアノステージ 79 名

11. 宮島達男「時の蘇生 柿の木プロジェクト」原美術館 ARC 植樹 20 周年記念イベント

I 講演会 「Meet the Artist: 宮島達男」

講師：宮島達男

日時：2025 年 11 月 16 日（日）16:15-17:45

会場：原美術館 ARC カフェ ダール

参加費：1,500 円（一般）、1,000 円（原美術館 ARC メンバー）入館料別、1 ドリンク付き

現代美術家 宮島達男氏による「時の蘇生 柿の木プロジェクト」の一環として、2005 年に当館の庭園に植樹された「被爆柿の木 2 世」は今年 20 周年を迎えた。これを記念し、柿の実が色づく 11 月に宮島達男氏によるアーティストトークを開催。青野館長を聞き手に迎え、映像を投影しながら、宮島氏が長年携わってきた「柿の木プロジェクト」を話題の中心に、長年交流を続けた原美術館、ハラ ミュージアム アークおよび原美術館 ARC との思い出を和やかに語っていただいた。また現在、宮島氏が現在取り組んでいる「時の海 東北」についても触れ、会の終盤には来場者からの質問が絶えないほど盛況のうちに終わった。終了後、来場者には当館の「被爆柿の木 2 世」の実をサプライズでプレゼントした。

参加人数：33 名

12. 宮島達男「時の蘇生 柿の木プロジェクト」原美術館 ARC 植樹 20 周年記念イベント

II 温井大介によるワークショップ 1 「壁にちりばめ柿に描き」

講師：温井大介

日時：2025 年 10 月 19 日（日）～2026 年 1 月 12 日（月・祝）10:00-16:30

会場：原美術館 ARC 内 カフェ ダール

参加費：無料

当館での「時の蘇生 柿の木プロジェクト」20 周年記念イベントとして、群馬県在住のアーティスト温井大介氏による 2 種類のワークショップを開催。本企画はそのうちの一つ、参加者は、折り紙で柿の実を折ったり、あらかじめ用意された温井氏デザインの柿の実や柿の葉をかたどったカードに平和へのメッセージを書き、カフェの壁に描かれた大きな柿の幹に自由に貼ってゆくというもの。子どもから大人まで幅広い層が参加し、外国語でのメッセージも見られた。アートを介することで年齢や性別、国境を越えて完成した平和への祈りに満ちた「柿の木」が完成し、参加した人々の心に平和への種を撒くような企画となった。

参加者（メッセージカードの枚数）：357 枚

13. 宮島達男「時の蘇生 柿の木プロジェクト」原美術館 ARC 植樹 20 周年記念イベント

Ⅲ 温井大介によるワークショップ 2「かきかきによい！」

講師：温井大介

日時：2025 年 11 月 1 日（土）、15 日（土）13:00-15:00、11 月 16 日（日）10:00-12:00

会場：原美術館 ARC 内 カフェ ダール

参加費：600 円

「時の蘇生 柿の木プロジェクト」に関連して、消しゴムハンコを使ったワークショップを開催。はがきサイズの用紙に、赤城山、原美術館 ARC の建築、人物、テーブルの上には「柿」、「被爆柿の木 3 世の苗木」、「柿パスタ」などのモチーフを順番に押していくが、スタンプの色はサイコロの出目で決まる。偶然に左右されるため出来上がりは誰も予想できず、参加者は思わずおまじないの言葉「かきかきによい！」（中国では「うまくいきますように！」を意味する「事事如意」と同じ発音である「柿柿如意」を縁起がいい言葉として用い、げんを担ぐことがある）とつぶやきながら、サイコロをふる。そうすることで知らずのうちに柿の木への希望や祈りを込めた作品に仕上がる。

参加者：15 名

14. 対話型作品鑑賞

日時：2025 年 11 月 8 日（土）11:00-12:00

参加費：無料

協力：対話型アート鑑賞ラボ

「対話型鑑賞」とは、文字通り、参加者どうしがおしゃべりをしながら鑑賞することで作品の見え方を広げていく方法。昨年に引き続き県内で活動する「対話型アート鑑賞ラボ」にファシリテーターを依頼し、事前に打ち合わせを重ね、1 作品 15 分程度を巡るプログラムを組んだ。当日は初めて参加する方だけでなく、大学生、他館でボランティアを行っている方、アートコレクターなどが参加し、それぞれのグループが積極的に意見交換を行った。

参加人数：10 名

15. メンバー限定イベント Art in Town: 国立新美術館

日時：2025 年 11 月 22 日（土）11:00

参加費：1,500 円（入館料別）

「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」展にて、担当の神谷幸江氏（国立新美術館学芸課長）による解説を聞きながら鑑賞した。当館とも縁の深い作家の作品が多数出品されており、神谷氏もそのような作品を交えた解説をしてくださった。1989 年を起点とした時

代の流れと共に〈同時代のアートを広げる〉ための表現の変遷をたどる好機となった。

参加人数：13名

16. メンバーシップ賛助会員・寄付者限定イベント 加藤泉スタジオビジット

日時：2026年2月11日（水・祝） 午前の部 10:30／午後の部 14:00

参加費：1,500円

日頃より当館の活動を支援くださっている賛助会員および寄付者の皆さまを対象とした限定イベントとして「加藤泉スタジオビジット」を開催した。当館ともゆかりの深いアーティスト・加藤泉氏のスタジオを訪れ、ご自身に作品にまつわるお話などを伺いながら、制作の現場を見学する貴重な機会とした。今回は午前の部を「個人賛助会員アソシエイトならびに寄付者の方」限定イベントとし、スタジオビジット後には、加藤氏と青野館長を囲んでのランチの時間も設け、こちらでも和やかな時間を過ごしていただくことができた。

参加人数：10名（午前の部2名／午後の部8名）

17. 原美術館 ARC メンバー限定イベント 開架式収蔵庫ツアー

日時：各回 11:00（所要時間約 60 分）

2025 年 4 月 5 日（土）2 名

5 月 3 日（土）6 名

6 月 7 日（土）メンバー1 名／一般 3 名

7 月 5 日（土）3 名

8 月 2 日（土）メンバー1 名／一般 5 名

9 月 6 日（土）0 名

10 月 4 日（土）1 名

11 月 1 日（土）5 名

12 月 6 日（土）0 名

2026 年 1 月 3 日（土）0 名

全 10 回

2023 年度よりメンバー特典として開催している開架式収蔵庫ツアー。通常は非公開の開架式収蔵庫内で、当館の所蔵作品や開催中の展覧会について解説する機会とした。

6 月 7 日（土）、8 月 2 日（土）は一般参加者（有料：1,000 円／入館料別）あり。

参加人数合計：27 名（メンバー19 名／一般 8 名）

【2】外部協力

青野和子

東京都現代美術館 美術資料収蔵委員会委員

群馬県文化審議員
群馬県博物館連絡協議会 副会長

渡辺純子
アジア・カルチュラル・カウンシル日本財団 理事

坪内雅美
学習院大学 非常勤講師
第54回 伝統工芸日本金工展 鑑審査委員
上毛新聞 オピニオン委員

【3】所蔵作品の貸し出し

(1)貸出先:兵庫県立美術館

期間:2026年2月中旬から5月中旬

理由:「アンチ・アクション」展(2026年2月28日から5月6日)への貸し出しのため ※3館巡回の3会場目

作家名:宮脇愛子

作品名:《無題》(1964年)

(2)貸出先:江戸東京博物館

期間:2026年11月中旬から2027年1月下旬

理由:「円山応挙」展(2026年11月28日から2027年1月24日)への貸し出しのため ※2館巡回の1会場目

①作家名:円山応挙

作品名:《淀川両岸図巻》(本図)(江戸時代)

②作家名:円山応挙

作品名:《淀川両岸図巻》(下図)(江戸時代)

(3)貸出先:東京国立博物館

期間:2026年12月から2027年4月頃

理由:特別展「源氏物語 王朝のかがやき」展(2027年1月19日から3月14日)への貸し出しのため
※2館巡回の2会場目

作家名:不詳

作品名:重要文化財《縄暖簾図屏風》(江戸時代)※東京国立博物館寄託品

(4)貸出先:大阪市美術館

期間:2027年1月中下旬から4月中旬

理由:「円山応挙」展(2027年2月6日から4月4日)への貸し出しのため

※2 館巡回の2会場目

①作家名:円山応挙

作品名:《淀川兩岸図巻》(本図)(江戸時代)

②作家名:円山応挙

作品名:《淀川兩岸図巻》(下図)(江戸時代)

【4】学校、団体来館の記録

小学校・中学校・高等学校4件、大学9件、専門学校2件、一般団体他33件 1130名

詳細

・学校団体 15 件

群馬大学教育学部(13名)、群馬大学手話サポーター養成プロジェクト(9名)、ドレスメーカー学院(54名)、ペンシルベニア大学(15名)、新潟大学(14名)、群馬日建工科専門学校(172名)、東京大学美学芸術学研究室(60名)、武蔵野音楽大学アートマネジメントコース(33名)、青山学院初頭部美術クラブ(28名)、慶應義塾女子高等学校天文研究会(26名)、東京女子館中学・高等学校(26名)、群馬県立伊勢崎高等学校美術部(12名)、国土館大学理工学部理工学科建築学系(35名)、国際情報工科自動車大学校(55名)、大阪公立大学建築計画構法研究室(25名)

・一般団体 34 件

ブライトスプーン(韓国旅行会社、2回利用、計38名)、TOHO-TRAVEL(韓国団体)、アラウンドトリップ(韓国団体)、釜山ブルー旅行者(韓国旅行会社)、Ian Art Consulting(韓国団体)、マゼランリゾート、クラブツーリズム()、Ms.Vanessa Tubino(万博モナコ館関係者)、T-LIFE ホールディングス、南海国際旅行、塩沢江戸川荘/塩沢号(5回利用、計106名)、成田市文化団体連絡協議会、富山県民館文化友の会、渋川市文化協会会員 他

【5】ポスター・チラシなどの作成配布

(1)「この、原美術館 ARC という時間芸術」+「特別企画 ジャネット カーディフ : 40 声のモテット」

ポスター 100 枚 チラシ 25,000 枚

(2)「トロイメライ」

ポスター 100 枚 チラシ 27,500 枚

C. 広報

原美術館ARC

取材件数 175 件(和文媒体 169 件／外国語媒体 6 件)

令和7年度は「この、原美術館 ARC という時間芸術＋特別企画 ジャネット カーディフ:40 声のモテット」展、「トロイメライ」展を開催した。「この、原美術館 ARC という時間芸術＋特別企画 ジャネット カーディフ:40 声のモテット」展は、地元紙の上毛新聞社や朝日新聞等の群馬県版およびネット版、東京新聞などで紹介された。開幕直後に開催した「Meet the Artist:ジャネット カーディフ」については毎日新聞(群馬版)や上毛新聞が取材。世界的アーティストであるカーディフの貴重なトークが開催された旨をレポートしてくれた。また新たな試みとして、「40 声のモテット」の CM 動画を作り、会期途中から YouTube 配信した。

「トロイメライ」展は上毛新聞社などの地元新聞や、美術専門誌や女性誌で紹介されたほか、会期中に開催した群馬交響楽団による館内コンサート「夢を奏でる三日間」は”クラシック音楽”と”現代美術”のコラボレーションとして反響を得た。これは「トロイメライ」がシューマンの著名な楽曲名であることにちなんで企画されたが、美術関係者だけでなく、現代美術になじみがない方や、美術館へ足を運ぶ機会の限られる学生層へアプローチすることを目的としたため、高校生以下の入館を無料にし、群馬交響楽団だけでなく群馬県や渋川市の教育委員会と協働しながら広報活動を行った。イベント当日は、狙い通り、中高年層が占める群馬交響楽団のファンや、小・中・高校生を含む家族層が多く来館し、豊かな自然環境の中で質の高い文化活動が続ける当館ならではの魅力を、世代やジャンルを超えて幅広く知ってもらった機会となった。

また本年度は宮島達男氏による「時の蘇生 柿の木プロジェクト」の、当館における植樹 20 周年を記念したイベントを 10 月～翌 1 月まで複数開催。機を同じくして NHK アートシーンで宮島達男氏の特集が組まれ、そのインタビューを当館で行うなど、長年宮島氏と交流を続ける当館の活動についても再注目される機会があった。

このほか、例年通り「るるぶ草津 伊香保 みなかみ 四万」「まっぷる群馬」「ことりっぷ 草津・伊香保 群馬」といった主要なガイドブックに掲載されたほか、群馬県の推進する新しい旅のかたち「リトリートぐんま」のモデルコース内の一施設として選出されることが続き、県公式の YouTube チャンネルやウェブサイト、SNS での情報発信に結び付けることができた。今後も伊香保温泉や群馬旅行の目的地として PR する機会を増やしていきたい。

外国語プレスからは、昨今顕著になった動向のひとつに日本国内の事業者によるインバウンド対策としての外国人観光客をターゲットとした問い合わせが主流となったことがあげられる。たとえば群馬県観光物産国際協会や韓国語によるインスタグラムへの美術館施設紹介がそれであるが、中でも 12 月 10 日に開催されたウェビナーへの参加はその最たる例である。これは美術館としても初めての試みとなった。NY を拠点とする建築センターとアメリカ建築協会が主催する建築とデザインの祭典「Archtober (Architecture + October)」の関連プログラムで、ブルームバーグが協賛するウェビナー「Travel to」(各地の美術館・建築をオンラインで紹介するシリーズ)において原美術館 ARC がフィーチャーされた。全世界での同時配信であったが、しばらくはネット上で配信されることから、海外からの観光客へのアプローチツールとしても期待している。

X(旧 Twitter)および Instagram の公式アカウントでも、広報活動を継続している。開館中はおよそ週 1 回のペース、SNS プラットフォーム自体の利用率と比例しリアクション率が高い傾向にある金曜夕方を中心に投稿した。ユーザーからは、当館を取り巻く豊かな自然や、奈良美智氏など世界で活躍する作家の作品紹介などへの反応が高い。

フォロワー数は、X(旧 Twitter)は約 12 万人(昨年度)から 11.3 万人(2026 年 3 月時点)と減少傾向にある。原因は、2025 年夏以降の大幅なアルゴリズムの変更(AI「Grok」主動へ移行)による影響が大きいと考えられる。新しい投稿の閲覧数もその時期を境に目に見えて減少している。

一方で、Instagram のフォロワー数は、約 3.7 万人(昨年度)から 3.9 万人(2026 年 3 月時点)へと増加した。また、当館公式 YouTube チャンネルにて、宮島達男氏の撮りおろしインタビューと、「夢を奏でる三日間」のダイジェスト版の 2 本の動画を公開した。

■ 展覧会 計 113 件(和文 109 件／外国語 4 件)

1. この、原美術館 ARC という時間芸術+〈特別企画〉ジャネット カーディフ:40 声のモテット
(2025 年 3 月 15 日－2025 年 7 月 6 日) 44 件[和文 43 件／外国語 1 件]
2. トロイメライ
(2025 年 7 月 12 日－2026 年 1 月 12 日) 51 件[和文 50 件／外国語 1 件]
3. 虹のつくり方
(2026 年 3 月 14 日－2026 年 9 月 6 日) 12 件[和文 11 件／外国語 1 件]
4. 安藤正子:普通の日々
(2026 年 3 月 14 日－2026 年 9 月 6 日) 6 件[和文 5 件／外国語 1 件]

■ 施設紹介、他 計 62 件(和文 60 件／外国語 2 件)

1. ARC 施設紹介 28 件[和文 27 件／外国語 1 件]
2. イベント、ワークショップ 31 件[和文 31 件]
3. カフェ ダール 1 件[和文 1 件]
4. ザ・ミュージアムショップ 1 件[和文 1 件]
5. ARC その他 1 件[外国語 1 件]

〈掲載媒体〉(和文／外国語、順不同)

【新聞】朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、東京新聞、上毛新聞、聖教新聞

【美術・デザイン専門誌】月刊ギャラリー(ギャラリーステーション)、博物館研究(公益財団法人日本博物館協会)、アートコレクターズ(生活の友社)、全国ミュージアムガイド(朝日新聞出版)、日本全国かわいい美術館の旅(宝島社)

【一般誌】和楽(小学館)、おとな TO こども TRIP と行く ぜったい楽しい親子旅バイブル(KADOKAWA)

【男性誌】HARPER'S BAZAAR(ハースト)

【ガイドブック】群馬の博物館・美術館ガイドマップ(群馬県博物館連絡協議会)、ゆこゆこ上信越版(ゆこゆこ)、るるぶ(JTB パブリッシング)、ことりっふマガジン(昭文社)、まっふるマガジン(昭文社)、まっふるドライブ(昭文社)、群馬県央エリア美術館・文学館ガイド(群馬県)

【ムック・書籍】甦るヴァニタス(岩波書店)

【その他・専門誌】Casa BRUTUS(マガジンハウス)、月刊短歌(角川文化振興財団)、Mercedes-Benz MAGAZINE(メルセデスベンツ日本合同会社)

【スマホアプリ】チラシミュージアム(イープラス)

【ウェブサイト】美術手帖(美術出版社)、TOKYO ART BEAT(アートビート)、Art iT(アートイット)、美術展ナビ(読売新聞)、アートアジェンダ(FAITH)、アートスケープ(大日本印刷)、今見られる全国おすすめ展覧会 100(KATYCOM)、アートテラー・とにへの【ここにしかない美術室】、Sfumart(ミュージアムマン)、ぐんまミュージアムサーチ(群馬県博物館連絡協議会)、ART news JAPAN(MAGUS)、VOGUE JAPAN(コンデナストジャパン)、エル・デコ(ハースト・デジタル・ジャパン)、ぴあ、リトリートぐんま(群馬県)、Walker plus(KADOKAWA)、Fashion Press(Fashion Press)、Vision(ビジョンサービス)、渋川伊香保温泉観光協会、伊香保つくし(伊香保温泉旅館協同組合)、日本旅行(株式会社日本旅行)、BIGLOBE 旅行(ビッググローブ)、駅探、るるぶ&more(JTB パブリッシング)、エクラ(集英社)、motto(トロワデザイン)、ゆこゆこ、群馬県観光物産国際協会(インフィニティ・コミュニケーションズ)、ぐんま県民カレッジ(群馬県生涯学習センター)、他

【YouTube】群馬県公式チャンネル・tsulunogs、アートのはなし こけラジオ

【テレビ】ほっとぐんま 630(NHK 前橋)、日曜美術館 アートシーン(NHK)

【その他】渋川・伊香保温泉バリアフリーマップ(渋川市)、白井屋ホテル パンフレット

D. Hara Museum Web

www.haramuseum.or.jp

blog: www.art-it.asia/u/HaraMuseum

X : [@haramuseum_arc](https://twitter.com/haramuseum_arc)

Instagram: [@haramuseumarc](https://www.instagram.com/haramuseumarc)

YouTube: www.youtube.com/@HaraARC

令和 7 年度の動き

当館では、教育普及および広報活動の一環として、所蔵作家のインタビュー等を紹介する公式 YouTube

チャンネルを運用している。こちらの普及促進と利便性向上のため、公式ウェブサイト上にリンク付けされたアイコン素材を新設した。また、SNS プラットフォーム「Twitter」の名称およびロゴが「X」へ変更されたことを受け、公式ウェブサイト上の Twitter アイコンも、公式ガイドラインに沿って「X」アイコンへ変更した。

〈アクセスログ解析 (<https://www.haramuseum.or.jp>)〉

*月平均訪問者数 73, 550 件

*月別最多訪問者数 84, 316 件(2025 年 10 月 展覧会「トロイメライ」)

E. 海外交流

【1】招聘 なし

【2】派遣 なし

F. メンバーシップ

【1】メンバーシップの動き

令和 7 年度は、メンバー限定イベントとして、訪問型イベント「Art in Town: UESHIMA MUSEUM」「Art in Town: 国立新美術館」を実施した他、賛助会員および寄付者限定イベントとして、所蔵作家である加藤泉氏のスタジオビジットおよび加藤泉氏、青野館長を囲んでのランチ会を開催し、参加者の皆様から高い評価を得た。しかし、全会員向け特典として実施している「開架式収蔵庫ツアー」では参加人数の伸び悩みが見られた。背景として、既存会員の多くが過去に参加済みであることが挙げられる。また、開架式収蔵庫見学に関心を持つ層は、一般参加可能日を選択する傾向があり、メンバーシップへの新規入会には必ずしも結びついていないのが現状である。

一方で、個人賛助会員の新規入会が 4 件(うち 2 件は群馬県内在住)あるなど、当館を積極的に支援しようと考えてくださっている層も少数ながら存在しており、当プログラムが一定の価値を有していることも確認できる。こうした点を踏まえ、会員の方々との関係性維持の観点からも、活動を継続実施する意義があると考えます。

令和 8 年度も、美術館支援および美術を介した人的交流の場を創出するというメンバーシップ本来の目的に沿うべく、同様の活動を継続し、会員の方々の知的好奇心や精神的充足感を満たす機会の提供に努めたい。また今後は、会員カテゴリーの見直しについても検討し、限られた人員で運営している現状に即した形で、プログラム内容の一層の充実を図りたい。

【2】会費・会員数推移

令和 7 年度は前年度にくらべ、会員数は減少となったが、個人賛助会員の新規入会が 4 件あり(パートナー 2 件、アソシエイト 2 件)、会費収入は増額となった。

令和7年度末における会員総数は73件。新規加入20件、継続加入53件。

(単位:円、税抜)

令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	
会員数	会費金額	会員数	会費金額	会員数	会費金額
87	4,350,032	84	3,900,029	73	4,020,028

カテゴリー別会員数

フレンズ会員 49 名、個人賛助会員 17 名、法人賛助会員 7 社

G. 所蔵作品をはじめとする資料のデジタル化およびデジタルトランスフォーメーション (DX) の推進

2025 年度より、DX 推進事業の一環としてブルームバーグ・フィランソロビーズが制作・運営するスマートフォン用無料アプリ「**Bloomberg Connects**」に参加している。ユーザーは世界の文化施設を紹介するアプリをスマートフォンにインストールし、当館のページにアクセスすることで美術館概要のみならず、コレクション作品の解説や音声ガイド、作家のインタビューなどのコンテンツをどこからでも閲覧することが出来る。コンテンツは随時更新可能のため、常に新しい情報をユーザーに届けることが出来る。

昨年 12 月にはブルームバーグが協賛するニューヨークを拠点とするプラットフォーム「**Archtober**」(主催: ニューヨーク建築センター、アメリカ建築家協会) の招待で、関連オンラインプログラム「**Travel To**」に参加。アジア圏内の「**Bloomberg Connects**」参加館を代表して出演し、館の活動や磯崎建築を紹介する好機を得た。

Ⅱ. 庶務事項

A. 役員に関する事項

令和 8 年 3 月 31 日現在

(50音順)

役員	氏 名	就任年月日	担当職務	職 業
評議員	麻 生 和 子	R1.6.19		一般財団法人アジア・カルチュラル・カウンシル日本財団 理事
評議員	大 林 剛 郎	H23.11.1		株式会社大林組 取締役会長 兼 取締役会議長
評議員	神 谷 幸 江	R7.6.12		国立新美術館 学芸課長
評議員	佐 藤 陽 一 郎	R4.7.29		太陽グラントソントン税理士法人 シニアパートナー 税理士
評議員	徳 川 義 崇	H27.6.25		公益財団法人徳川黎明会 会長
評議員	原 直 道	H23.11.1		日本土地山林株式会社 代表取締役社長
評議員	丸 山 剛 郎	H27.6.25		大阪大学名誉教授、特定非営利活動法人日本咬合学会 理事長 歯学博士

役員	氏 名	就任年月日	担当職務	職 業
理事長	原 俊 夫	H23.11.1	常勤	日本土地山林株式会社 取締役会長
常務理事	原 信 道	R7.6.12	常勤	投資家、ビジネスコンサルタント
理事	國 生 肇	H23.6.30		國生肇法律事務所 弁護士
理事	坂 本 正	H23.6.30		学校法人高輪学園 理事長
理事	平 野 信 行	R4.7.29		株式会社三菱UFJ銀行 特別顧問
理事	安 田 信	H23.6.30		株式会社安田信事務所 代表取締役社長
理事	吉 野 誠 一	R7.6.12		GUIDE主宰

役員	氏 名	就任年月日	担当職務	職 業
監事	千 葉 雄 二	H27.6.25		千葉雄二税理士事務所 税理士
監事	野 嶋 慎 一 郎	H23.6.30		野嶋慎一郎法律事務所 弁護士

B. 職員に関する事項

令和8年3月31日現在

所 属	主な役職者、部署別人数	担 当 業 務
原美術館ARC	館長 青野和子	美術館統括 主任学芸員 教育プログラム事項 作品管理事項
	学芸部 3名	学芸事項
	管理部 1名	管理業務
理事長室	1名	インターナショナルプログラム事項 メンバーシップ事項
事務局	事務局長 加藤隆一	法人事務
合 計	7名	

(備 考)

- 1.上記の他、アルバイトが常勤している。
- 2.上記には出向者を含む。

C. 役員会事項

1. 評議員会

【第1回開催】令和7年6月12日

〔報告事項〕

(1) 令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）事業内容報告の件

〔決議事項〕

(1) 令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）計算書類承認の件

〔結果〕報告事項について議長は、令和6年度の事業経過につき、理事長他担当学芸員等に説明を求め、別添資料に基づく詳細な説明がなされた。

第1号議案については、評議員全員一致をもって原案どおり承認可決した。

【第2回開催】令和7年10月29日（評議員会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

(1) 定款変更の件（変更内容は別添の定款変更案の通り）

①基本財産（公益目的事業を行うために不可欠な特定の財産以外のものの点数・名称変更）

②特定預金（三菱東京UFJ銀行 普通預金を削除）

③貸付債権（新設）

〔結果〕令和7年10月23日、理事長原俊夫が評議員全員に対して上記評議員会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案につき、令和7年10月29日に評議員の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされた。

2. 理事会

【第1回開催】令和7年5月28日（理事会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

(1) 令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）事業報告内容を報告し、計算書類等承認決議の件

(2) 定時評議員会招集決議の件

〔結果〕令和7年5月21日、理事長原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案につき、令和7年5月28日に理事の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

【第2回開催】令和7年6月12日

〔決議事項〕

- (1) 代表理事1名選定の件
- (2) 常務理事1名選定の件

〔報告事項〕

- (1) 職務執行状況報告

〔結果〕1号議案、2号議案については、定款第32条1項の規定により、当財団の代表理事（理事長）1名、常務理事1名を互選により選定する必要がある旨を述べこの選定につき一同に諮ったところ、互選により原俊夫を代表理事として、原信道を常務理事として選定した。

尚、被選定者は、席上ただちにその就任を承諾した。

報告事項について、常務理事から今般当財団が所有する基本財産である美術品の財産目録の内容を整理確認したところ、展示に適さない状態や管理不可能な作品があり、該当する美術品を処分する等の基本財産の整理について報告があった。

【第3回開催】令和7年10月21日（理事会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

- (1) 評議員会への定款変更の提案の件

定款変更承認の件を評議員会の決議の目的である事項とし、評議員会の決議の省略により行うことを各評議員に提案する。

〔結果〕令和7年10月20日、理事 原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案につき、令和7年10月21日に理事の全員から書面による同意の意思表示及び監事全員の異議がない旨の申し出を得たので、当該提案を可決する旨の理事会の議決があったものとみなされた。

【第4回開催】令和8年3月17日

〔決議事項〕

- (1) 令和8年度（令和8年4月1日から令和9年3月31日まで）事業計画及び収支予算、資金調達及び設備投資の見込みについて、当該事業年度開始の日において行う公益目的事業の種類または内容について記載した書類承認の件

〔報告事項〕

- (1) 令和7年度（令和7年4月1日より令和8年2月28日現在）事業執行状況報告の件

(2) 内閣府立入検査実施について

〔結果〕第1号議案について全員一致をもって原案通り可決承認した。

報告事項について議長は、令和7年4月1日以降の業務執行の状況説明のため、令和8年2月28日現在の別添資料に基づき、事業の推移、理事長及び常務理事の職務執行状況、財政と損益の状況及び令和8年3月期の収支決算の予想について説明し報告した。

内閣府立入検査実施については、事務局より、令和8年1月20日に内閣府公益認定等委員会による立入検査が実施されたことについて報告があった。

D. 関連組織兼任事項

理事長原俊夫が役員を兼任する外部関連団体、役職

令和8年3月31日現在

1. ニューヨーク近代美術館国際評議会 名誉委員
2. ホノルル ミュージアム オブ アート 名誉評議員
3. 公益財団法人徳川黎明会 評議員
4. 公益財団法人大林財団 名誉評議員

E. 法人の運営体制の充実を図るための取組

1. 美術に関する専門知見を有する評議員1名、及び理事1名を新たに選任し、法人運営体制の充実を図った。

2. 法人運営の透明性向上を目的として法人独自のホームページを開設した。

従来の公益法人共同サイトにおいては、財産目録、計算書類及び事業報告書について、単年度分の掲載であったが過去5年度分を公開するようにし、情報公開体制の充実を図った。

(URL: <https://www.foundation-arcenciel.org/>)

3. 原美術館 ARC の運営に関して、災害時対応、不審者侵入対応等の危機管理マニュアルを策定し、法人のリスク管理体制の充実を図った。

F. 庶務

1. 博物館法改正に係る再登録について

令和5年4月1日に改正博物館法が施行され、新たな登録制度へ移行した。従前の登録博物館は、経過措置期間内に再登録を行うことが求められている。当館では令和7年

9月1日付で群馬県へ再登録の申請手続きを行い、令和8年2月12日付で再登録完了の通知を受けた。

2. 博物館における青少年に対する学習機会の充実に関する基準、望ましい基準

群馬県に対し「青少年を対象にした取り組み等に関する実績報告」を令和7年6月27日に届出した。

3. 内閣府立入検査実施

令和8年1月20日に内閣府公益認定等委員会による定例の立入検査の実施があった。
一部法人運営手続等に改善指導を受け、順次対応中である。

Ⅲ. 委託付帯事業事項

原美術館 ARC において株式会社アーテックが当財団より委託され営業している The Museum Shop 及びカフェ ダールの運営状況は次の通りである。

【1】 The Museum Shop (物販)

年間販売額 1,459 万円 (税別)

年間利用客数 5,344 名 対総入館者比 23%

〔内訳〕 店舗販売	1,420 万円 (税別)	5,263 件
オンライン販売	38 万円 (税別)	77 件
通販・卸・委託販売	4 万円 (税別)	4 件

主な販売商品

オリジナルポストカード、オリジナルグッズ、草間彌生グッズ、奈良美智グッズ、鈴木康広グッズ、横尾忠則グッズ、磯崎新グッズ、ソフィ カル書籍、コムデギャルソン香水、MiW ハンカチ、メガネピン、hibi お香など、約 1,000 品目。

【2】 カフェ ダール (飲食)

年間販売額 867 万円 (税別)

年間利用客数 7,723 名 対総入館者比 33.0%

IV. 寄付金等に関する事項

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(単位：円)

寄付の目的	寄付者	領収金額	備 考
1. 寄付金	個人	21,986,200	7 件
	法人	6,000,000	1 件
	合計	27,986,200	8 件 (内、使途指定寄付 2 件 11,686,200)

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。